

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	136人	社会	136人	数学	136人
	理科	136人	英語	136人		

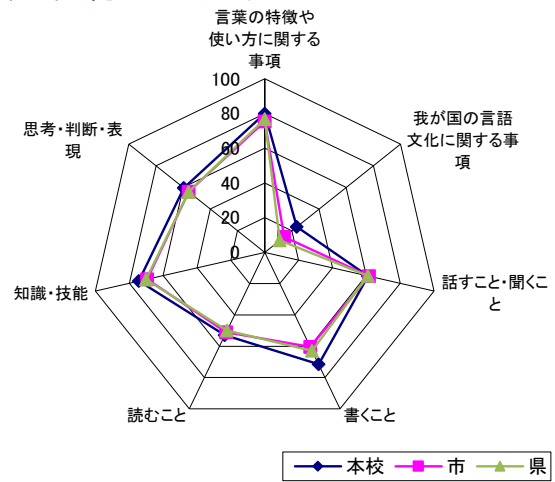
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	80.0	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	23.5	14.3	11.2
	話すこと・聞くこと	61.0	61.6	60.9
	書くこと	71.5	60.4	62.9
	読むこと	52.9	51.0	49.9
観点	知識・技能	74.3	69.4	70.1
	思考・判断・表現	59.6	56.0	55.9



★指導の工夫と改善

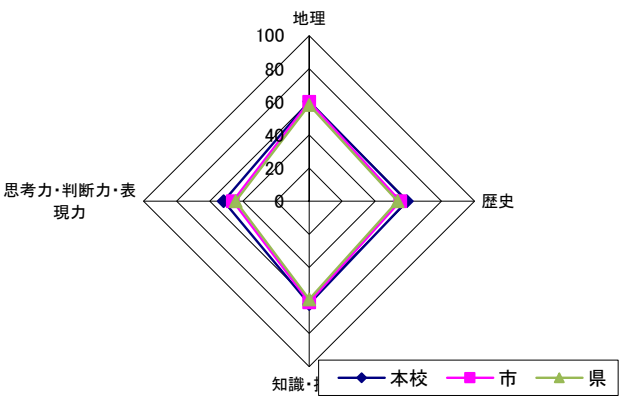
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	正答率は県を3.3ポイント、市を4.5ポイント上回った。 ○漢字の読みの正答率は県と同様、またはそれを上回っている。文脈から漢字の読みを類推できている。 ●漢字の書き、単語に区切る問題について、正答率の低い問題が見られた。	・基礎の内容である漢字の読み書きは、確認テスト等を継続的に行っている。漢字力の向上は学習全体の自信にもつながる。新出漢字や語句について、正確に理解し、定着させられるよう、ワークブックを用いた予習・復習の呼びかけを行う。また漢字の書きは小学校の内容についても、AIDリルの活用により反復練習を促し、定着を図る。
我が国の言語文化に関する事項	正答率は県を12.3ポイント、市を9.2ポイント上回った。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題について、県・市とも正答率が上回った。 ●上回ったとはいえ、高い正答率とはいえない。日常の使用頻度が高いとはいえない設問であったことが理由と考えられる。	・今回の調査では、歴史的仮名遣いの出題のみで正答率を測っているものの、古典の学習については、古語の意味、文法的理解、分業役からの理解など、2年時以降の学習において再度復習できるものが多い。機会を十分に生かし、繰り返しの学習による定着を図る。
話すこと・聞くこと	正答率は県を0.1ポイント上回り、市に対しては0.6ポイント下回った。 ○話し合いの聞き取りは正答率が高い。 ●必要に応じて記録しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題、聞いたことを元に自分の考えを述べる問題での正答率が低かった。	・内容の理解はよくできているものの、話の構成を考えながらメモをとることや自分の考えをまとめるところでのつまづきが見られる。聞き取りを伴う学習活動や作文練習を多く取り入れ、繰り返し指導していく。
書くこと	正答率は県を8.6ポイント、市を11.1ポイント上回った。 ○問題の指定通りに書くことができている。 ●自分の考えを明確にして書くことができるかどうかをみる問題については、他の問題に比べ正答率の上回り方が小さかった。	・読みとったことについて書くことはできているため、今後とも正確な読み取りができるよう、練習機会を設けたい。自分の考えを書くことに関しては作文練習を多く取り入れ、繰り返し指導していく。
読むこと	正答率は県を3.0ポイント、市を1.9ポイント上回った。 ○8問中5問で県・市の正答率を上回っている。 ●場面の展開や登場人物の心情の変化について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる問題については正答率が高くはなかった。	・内容の解釈や表現の効果については根拠を明確にして書けている。一方で、場面の展開や登場人物の心情の変化について問う出題では「読むこと」内で比べると低い。心情の移り変わりや描写との関連付けについて丁寧に例示を交えて触れながら、授業を進めていく。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	60.3	60.1	58.1
	歴史	59.2	55.1	53.5
観点	知識・技能	62.1	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	51.6	46.0	44.3



★指導の工夫と改善

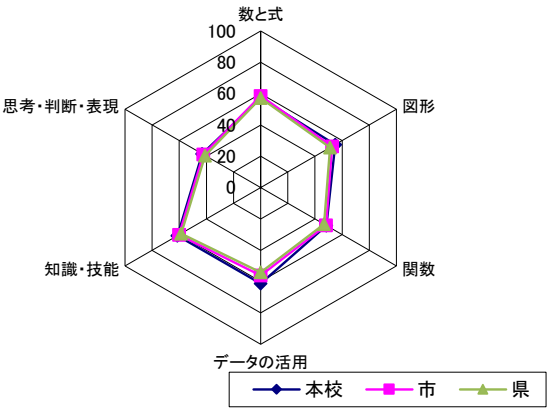
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	正答率は、県を2.2ポイント、市を0.2ポイント上回っている。 ○「世界の姿」で2.4ポイント、「日本の姿」で、0.1ポイント、「世界各地の人々の生活と環境」で2.4ポイント、「世界の諸地域」で3.1ポイント県の正答率を上回っており、全体的に見て、どの分野においても定着度が高い。 ○「世界各地の人々の生活と環境」の中の熱帯と亜熱帯の住居に関する記述式の問題の正答率が、県を8.2ポイント上回った。 ○「世界の諸地域」の中のカタールの人口構成に関する記述式の問題の正答率が、県の正答率を7.7ポイント上回った。 ●「世界の諸地域」の中の資料から読み取り、記述する問題の正答率が低かった。 ●排他的経済水域の範囲や亜寒帯気候の特徴に関する問題で県を10ポイント程度下回った。	・資料を精選し、読み取りの際には分布や変化に注目させ、読み取りの視点を明示したうえで考察させる指導を継続する。 ・ICT機器や世界各地の人々の生活の動画を効果的に活用して、各地の生活に興味を高めさせる。 ・複数の資料から各地の生活の特色を読み取らせる指導を随時行う。 ・気付きを発表させる言語活動の展開を充実させる。
歴史	正答率は、県を5.7ポイント、市を4.1ポイント上回っている。 ○すべての単元において、県の正答率を上回っている。 ○「縄文時代～古墳時代」の問題は、すべて県の正答率を上回っている。 ○「飛鳥時代～平安時代」の問題は、ほぼ県の正答率を上回っている。 ○「鎌倉時代～室町時代」の問題は、県の正答率を11.8ポイントと大幅に上回っている。 ●「平城京から平安京に遷都した理由」に関する記述式の問題が、2.5ポイント県を下回っている。 ●記述式の問題の無解答率が30.0ポイントと高い。	・「古代までの日本」については、時代のまとまりをしっかり捉えて、時代を代表する人物や歴史的事象を通して、歴史の学習に関心を高められるよう指導を工夫する。 ・「中世の日本」については、古代までと比べると正答率が低くなる傾向にある。身近な中世の史跡や人物を図書資料やICT機器で分かりやすく紹介し、理解を深め関心を高める指導を工夫して行う。 ・資料をもとにした考察、表現の問題に対応できるようにするために、数多くの資料を活用し、資料活用の視点、解釈の仕方などを中心に正しく読み取れるように指導の工夫を図る。 ・たくさんの資料の着眼点と用語をどのように活用するのかを意識させ、無解答率が低くなるように指導を工夫する。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	57.2	58.6	57.2
	図形	54.9	52.6	51.1
	関数	48.4	48.2	46.8
	データの活用	61.2	56.1	54.1
観点	知識・技能	61.3	60.2	58.6
	思考・判断・表現	43.1	42.3	40.9



★指導の工夫と改善

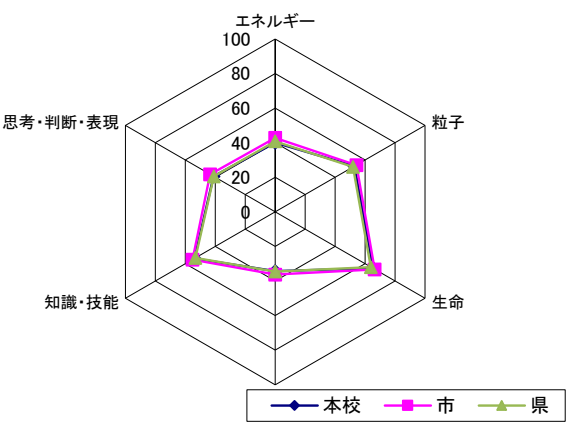
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正答率は、県と同ポイント、市に対しては1.4ポイント下回っている。 ○文章表現で式の意味を説明する問題では、0.6ポイント県の正答率を上回っている。 ●正負の計算、文字式の計算の問題では、すべての問題で、県・市の正答率と同様、または下回っている。	・計算力を高められるように、授業の最初に計算練習を行ったり、AI型個別学習ドリルを活用した学習を効果的に取り入れたりして、学習内容の定着を図る。 ・用語の持つ意味などの定着のために、授業の振り返りで、その用語を用いて自分の言葉で書かせるなどの工夫を図る。 ・説明をする問題に対して、授業中で取り扱ったり、定期テストに出題したりして問題に慣れさせる。
図形	正答率は、県を3.8ポイント、市を2.3ポイント上回っている。 ○平面図形、空間図形とも、ほとんどの問題で県、市の正答率を上回り、学習内容の定着が図られている。 ●垂直二等分線の作図、円柱の側面積を求める問題では、50%以下の正答率であり、作図の方法や求め方を忘れてしまっている生徒が多い。	・図形の基本的な知識や技能をさらに定着させるために、図形の学習に入る前に、既習の内容の復習を行う。
関数	正答率は、県を1.6ポイント、市を0.2ポイント上回っている。 ○反比例の式を選んだり、与えられた表から比例の関係を表すものを選ぶ問題では、正答率が高い。 ●関数のグラフから求め方を説明する問題で、理解が不十分な生徒が多い。	・式、表、グラフの関係がしっかり結び付けられるように、授業中にまとめられるよう指導する。 ・関数に関しては、全体的に理解度の低さが見られるので、少人数学習を取り入れたり、AI型個別学習ドリルを活用したりして定着を図る。
データの活用	正答率は、県を7.1ポイント、市を5.1ポイント上回っている。 ○すべての問題で県や市の正答率を上回っており、学習内容が定着しつつある。 ●示された考えが正しいことを、グラフから読み取った傾向をもとに説明する問題で無回答率が約30%と高い。	・実力テストの前や後の効果的なタイミングで復習を取り入れ、定着を図っていく。 ・資料を読み取り、内容を説明する問題については今後、練習を積み重ね、理解できるよう指導していく。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	40.1	42.8	40.8
	粒子	52.9	54.2	52.0
	生命	65.4	66.4	63.8
	地球	34.2	36.2	34.5
観点	知識・技能	53.9	55.2	53.3
	思考・判断・表現	41.2	43.5	41.0



★指導の工夫と改善

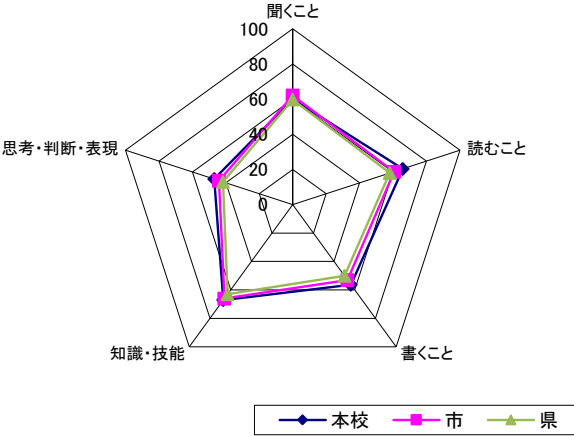
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	正答率は市平均から2.7ポイント、県平均から0.7ポイント下回った。 ○ばねの伸びから力を求める問題では、市平均より、4.3ポイント、県平均より4.2ポイント上回った。 ○波形から音の高さを求める問題では、市平均より2.2ポイント、県平均より3.3ポイント上回った。 ●光の性質、音の性質では市と県の平均を下回った。	・誤った考察を正しく書き直す問題に課題がある。タブレットやホワイトボードを利用して、自分の言葉で表現する機会を多くする。
粒子	正答率は市平均から1.3ポイント下回り、県平均から0.9ポイント上回った。 ○気体の性質では、市、県を上回る結果となった。 ○質量パーセント濃度の計算のしかたでは、市平均を4.6ポイント、県平均を6.4ポイント上回った。 ○グラフから、結晶が析出したときの質量を求める問題では、市、県の平均を上回った。 ●実験操作に関する問題では、市、県ともに下回った。	・実験操作に関する問題を不得意とする生徒が多いことから、操作の意味をよく理解できないまま操作を行っている生徒が多いことがわかる。実験後の確認で問題演習を行う。
生命	正答率は市平均を1.0ポイント下回り、県平均を1.6ポイント上回った。 ○正しいスケッチの取り方は市平均を3.2ポイント、県平均を3.9ポイント上回った。 ○裸子植物の花のつくりは市平均を3.2ポイント、県平均を5.5ポイント上回った。 ●植物の分類、動物の仲間のふやし方については、市、県を下回った。	・知識理解に関することでも、問題によって正答率にばらつきがみられるので、基礎的な知識の復習をし、定着を図る。
地球	正答率は市平均を2.0ポイント、県平均を1.6ポイント下回った。 ○鉱物と火成岩の理解は市平均を0.4ポイント、県平均を1.8ポイント上回った。 ○地層ができた時代を知る手掛かりにつながる化石の名称について、市、県を上回った。 ●地層から、河口からの距離の変化を分析する問題では、市平均を6.0ポイント、県平均を3.7ポイント下回った。化石を手掛かりとして、時代の流れを考察することができていない。 ●マグニチュードと震度の理解について、市平均を10.0ポイント、県平均を8.6ポイント下回った。	・知識として名前を憶えているということは比較的得意であるため、今後も基礎力向上に取り組んでいく。 ・マグニチュードと震度はニュースなどでは同時に報じられること多く、どちらも「地震の大きさ」のようなイメージで答えてしまっている。日常生活で似たものとして扱われるものについて、明確な違いをもう一度授業において確認する。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	60.0	62.0	59.7
	読むこと	65.8	60.6	58.0
	書くこと	56.4	53.1	50.1
観点	知識・技能	67.2	66.0	63.0
	思考・判断・表現	46.9	44.1	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	正答率は、県を0.3ポイント上回ったが、市を2.0ポイント下回っている。 ○絵を適切に表している英文を聞き取る問題では、3問中2問が県の正答率を上回っている。また、英文を聞き取り、尋ねられたことに対して自分の考えを簡潔に答えることができるかどうかを問う問題では、県を4ポイント程度上回っている。 ●英文の要点を聞き取る問題では15.4%という低い正答率であり、県の平均を4.6ポイントも下回った。	・基本文の導入などの際、生徒同士や生徒と教師間での英語でのやりとりを多く取り入れ、相手が話したことを正しく理解したり、即興で応答したりする活動を継続して行う。 ・様々な種類や内容の英文を聞き、耳を慣れさせる。 ・教科書の本文の内容に関する質問を英語で聞き取り、正確に答えられるようになるドリル活動を多く取り入れる。
読むこと	正答率は、県を7.8ポイント、市を5.2ポイント上回っている。 ○語形・語法・語彙の知識・理解を問う問題では、すべての問題で県を上回っており、特に代名詞の用法や疑問詞の理解を問う問題では、いずれも10ポイント以上上回るなど、理解度が高かった。 ●長文を読み取り、読み取った内容をふまえてふさわしいタイトルを付ける問題では、58.1%と低く、県の平均を1.6%下回った。	・文法や単語に関する知識・理解、比較的長い英文を読み取る力は身に付いているようだが、内容によって難解に感じる生徒もいるようだ。今後は、様々な種類の長文を読む機会を増やし、生徒の視野を広げる活動を増やしていく。
書くこと	正答率は、県を6.3ポイント、市を3.3ポイント上回っている。 ○問題を活用して英文を完成させる問題では、3問すべてが県の正答率を大きく上回っている。 ●与えられた情報に基づいて文を正確に書くことや、場面や情報を精査して前後のつながりのある英文を書くことが苦手な生徒が多いことが分かった。	・各単元のごとに、自分の考えを書く活動を計画的に取り入れ、ある程度まとまりのある英文を書く練習を継続的に行うことで、英作文に対する苦手意識を克服していけるようにする。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○1(2)「家で宿題をしている」の項目において、「はい」と回答した生徒の割合は県、市に比べて高い。また、「家で、学校の授業の予習をしている」の値も同じく肯定的な割合が高い。全体の取組である、自主学習ノートの提出率が大変高いことと連動しているからだと考えられるが、この取組が結果として授業への意欲やテスト成果の向上に結び付けていきたい。

○5(35)「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の項目では、肯定的回答が県や市町村の割合よりも高い。各教科や特別活動における取組の成果だと思われるが、家庭や地域の影響もあるのではないかと考える。

○8(63)「家の人は、あなたがほめてもらいたいことを褒めてくれる」の質問では、肯定的な回答が、県と市の平均より10ポイント以上高い。家族のコミュニケーションが良好であることがうかがえる。今後、この結果を家庭に報告したり、教員が共通理解したりすることで生徒の意識や行動を継続、伸長させたい。

○11(102)「次の教科などの学習は将来のために大切だと思いますか。総合的な学習の時間」において、の「はい」「どちらかといえば、はい」の肯定的な回答が、県と市のポイントより10ポイント以上高く、70%を超えている。1人1台端末の活用も含まれているとも思えるが、分からないものを調べたり、探求したりする能力を自分の将来を考える力に結び付けるようにしたい。

●5(29)「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」のポイントが県、市に比べ「はい」が約2ポイント低く、「どちらかといえば、はい」と合わせても4ポイント弱下回っている。ワークシート・ノートの活用等で授業の振り返りを確実に行うことで、その学びが、後の学習に蓄積されるような取組にしたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自主学習ノートへの取組	・毎日、A4ノート1ページ分の学習を家庭で行って提出する。	1(2)「家で宿題をしている」の項目において、「はい」と回答した生徒が県、市に比べ6ポイント以上高い。また、「家で、学校の授業の予習をしている」の値も同じく肯定的な割合が高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
5(29)「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」のポイントが県、市町村に比べ「はい」が約2ポイント低く、「どちらかといえば、はい」と合わせても4ポイント弱下回っている。	ワークシートやノートの活用等で授業の振り返りを確実に行う。	1人1台端末を利用し、短時間でその時間の学びを振り返ることができるワークシートを作成する。また、その蓄積によって、次の学びへの課題や目標に結び付ける。